

2013年3月18日

都市ガス・LPガス両業界団体による 『暮らしの安心・暮らしの省エネ・暮らしの快適』 実現のための連携強化についての共同宣言について

日本ガス体エネルギー普及促進協議会

一般社団法人 日本ガス協会、日本LPガス団体協議会、および一般社団法人 日本コミュニティーガス協会の三者で構成する日本ガス体エネルギー普及促進協議会（通称：コラボ）は、お客さまの『暮らしの安心・暮らしの省エネ・暮らしの快適』を実現していくため、LPガス、都市ガス両業界が一層連携を強化していくことを確認し、共同宣言を發表します。

日本ガス体エネルギー普及促進協議会は、2005年10月に設立されて以来、これまで国の基幹エネルギーとしての役割・責任を果たしていくため、一般ガス、LPガス、簡易ガスの枠を超え、生活・文化の安定・向上、産業・地域の振興・発展、環境の改善、安全な社会の実現等を目的に、様々な取り組みを行ってまいりました。

東日本大震災以降、分散型エネルギーとしてエネルギーミックスを実現する都市ガス・LPガスに対する期待が高まっています。また、お客さまにおいては、暮らしの快適性を維持しながら、安全・安心の確保や省エネを実現していきたいという意識・ニーズが高まってきています。こうしたお客さまのニーズにお応えし、両業界が広く社会に貢献していくために、お客さまの『暮らしの安心・暮らしの省エネ・暮らしの快適』を実現するための活動において連携を強化していくことといたしました。

2013年度の具体的な取り組みとして、「高い省エネ性を実現する家庭用燃料電池の普及拡大」、その組み合わせとして床暖房の「快適な住空間の創出」や、浴室暖房乾燥機による「高齢者の浴室でのヒートショック対策」、更にガスコンロを原因とする火災の撲滅のための「安全安心コンロの普及拡大」などを推進してまいります。また、ガス体エネルギーの先進性やガスのある生活への期待感などを表現し、安全・安心、省エネ、快適などを実現する「ガ、スマート！」という統一キーワードと合わせて提案活動に取り組んでまいります。こうした連携の結束を各団体において確認すると共に、取り組みを社会に広く知っていただくため、このたび共同宣言を行うものです。

1. 共同宣言の内容

わが国のエネルギーシステムが大きな変化を迎えようとする中、分散型システムであるガス体エネルギーに対する社会からの期待に応えるべく、都市ガス・LPガスの両業界は、お客さまの『暮らしの安心・暮らしの省エネ・暮らしの快適』の実現に貢献するため、連携・協働を一層強化していくことを確認する。

2. 2013年度の具体的な取り組み

○高い省エネ性を実現する家庭用燃料電池の普及拡大

家庭用燃料電池は分散型発電として高い省エネを実現するものであり、国が普及拡大目標(※)として掲げた2020年累積140万台、2030年累積530万台の実現に向け、都市ガス・LPガス両業界が協力して普及を加速していく。

(※) エネルギー基本計画、日本再生戦略 2020年累積140万台
革新的・エネルギー環境戦略 2030年累積530万台

○安全・安心コンロの普及拡大

ガスコンロを原因とする火災の撲滅のため、2008年4月に全口センサーの標準化を自主的に実施。順調に普及が進んでおり、発売からわずか4年で全国の推定普及率が30%を突破。本年秋頃、普及が累積2000万台を超えるのを機に、Siセンサーコンロの安全機能・便利機能を訴求するプロモーションを全国大で実施予定。

○浴室暖房乾燥機による高齢者の浴室でのヒートショック対策

冬場の浴室の寒暖差で血圧が急に変化する「ヒートショック」現象による事故と、それを防止するために有効な浴室暖房乾燥機に関する情報を広く発信していく。

○快適なガス温水床暖房の普及

床面からの輻射で暖めるガス温水床暖房は、部屋全体をムラなく均質な温度分布を実現できる、頭寒足熱型の理想的な暖房であり、快適かつ健康的な住空間創出に大きく貢献することができる。高効率給湯(暖房)機(エコジョーズ)や家庭用燃料電池エネファームの普及拡大とともに、その組み合わせとしてガス温水床暖房の普及にも取り組んでいく。

以上の取り組みについて、ガス体エネルギーの先進性やガスのある生活への期待感などを表現し、安全・安心、省エネ、快適などを実現する「ガ、スマート!」という統一キーワードを用いて、提案活動に取り組んでまいります。



ガ、スマート!

以上

お問い合わせ先：

一般社団法人 日本ガス協会 広報室

03-3502-0112

(日本ガス体エネルギー普及促進協議会 事務局)